

平成29年度第2回新子どもかがやきプラン推進委員会の報告について

1 開催日時・場所

平成29年11月8日（水） 午前9時30分～午前11時30分
於：県庁11階 教育委員会室

2 議事

(1) 特別支援学校高等部の職業教育の在り方について

- 一般企業に特別支援学校の高等部のことを知ってもらうことが重要。高等特別支援学校の整備とともに、中重度の生徒に対する作業の見直しを図る必要がある。
- 高等特別支援学校について、高校のノウハウが生かせることもあると思うので、県外を参考に、高校内への高等特別支援学校設置も考えてもらえるとよい。
- 高等特別支援学校の機能を、今後、可茂、東濃、飛騨地域にも整備してほしい。高校内に設置をすれば、早急に整備できるのではないかな。

(2) 発達障がい等総合支援モデル事業及び発達障がい児童生徒支援事業について

- 通常の学級の教員の専門性向上は、一番の課題。実践者OBによる助言は現場の状況に合った適切な施策。
- 現場の教員には、子どもの指導にすぐ使えることを教えてほしいというニーズがある。
- 高等学校コミュニケーション講座のモデル研究校でのノウハウを他地域にも拡充してほしい。中途退学する子の中には、通級があると救われる子もいると考える。

(3) 病気やけがで入院している児童生徒の学習機会を保障するための支援体制整備について

- 高校では、単位の認定を考えた時に、病院にいる状態を出席とみなすかどうかの課題がある。オンデマンド等、ICTを活用することも一つの方法。
- 実態調査をして、実態を明らかにし、専門家チームを作るなどして検討してほしい。

(4) 寄宿舍の現状について

- 寄宿舍はこれまで遠距離のため通学が困難である者のために設置されていたが、子どもかがやきプランで地域に特別支援学校を整備したことで、その必要性も薄れてきた。今後閉舎になっていくことは自然な流れではないか。閉舎後は、施設の有効活用を検討すべき。
- 従来の寄宿舍という概念から少し広げて、寄宿舍の役割を含めながら、幅広い施設の活用ができないか。